

コミナビ

前回から参加者数の制限が緩和され、会場内の参加者もぐっと増えて、かつてのコミケットの雰囲気に戻ってきたのが感じられます。

今回はさらにサークル数も増え、急速にコロナ禍後のコミケットが再構築されていきます。参加者も乗り遅れないようにアップデートしていきましょう！



■■冬の準備は広く浅く■■

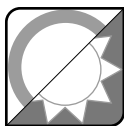
『冬コミは基本的には夏コミよりも楽！』と夏冬のコミケットを体験した参加者のほとんどが言う。実際、暑さよりも寒さの方が比較的対策しやすいのは事実だし、関東地方の冬は晴れる日が多いので夏ほどゲリラ豪雨などの天候急変に神経質にならなくても済む。しかしそれは、特に準備や対策をしないで来場しても大丈夫、という意味ではない。

年末開催は多くの参加者にとって疲労が蓄積する時期でもあり、冬は夏以上に細々とした身体トラブルが発生しやすくなるだけでなく、感染症についても流行の本番シーズンとなる。さらに確率は低くても雨や雪も降るし、濡れてしまった時のツラさは夏の比ではない。

冬コミに参加する際は、あらゆることに対して『念のため』の用意をしておく必要があるのだ。

■まずは冬コミの環境を知ることから■

上にも書いた通り、基本的に冬の関東地方は乾燥した晴天の日が多い。都内近郊に住んでいるとそれが当然のように感じられるが、日本中・海外からも参加者の集まるコミケットではそうではない地域からの参加者も少なくない。たとえば雪国から冬コミに参加したなら、地元との環境差は小さくないだろう。遠方から来場する参加者は、コミケット当日やビッグサイト現地だけの環境にとどまらず、地元との環境差が移動に際しての疲労と共に身体への負担となることも考えなくてはならない。一口に寒さ対策と言っても考えることは多いのだ。



冬コミの【晴れ】

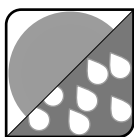
晴天の場合、夜間に放射冷却と呼ばれる現象で気温がぐっと下がり、零下の気温になることもある。風があれば体感気温はさらに下がるため、早朝はかなり寒い。そこから日中にかけて気温はぐんと上がり、汗ばむくらいの陽気となることも多く、あまり着込んでいると今度は暑くて難儀することになる程度に寒暖の差が大きいのが特徴。

空気は極めて乾燥しており、降雪地域など冬でも空気の湿度が高めの土地から来ると喉を痛めることもある。また紫外線も強いために肌や目の乾燥や紫外線によるダメージを防ぐ対策をしておくことよ（夏と紫外線の波長が異なるので、日光に過敏な肌質でなければ日焼けになることは少ない）。



冬コミの【曇り】

薄曇りくらいなら逆に気温はそこまで下がらず、直射日光も和らぐので寒暖差が小さくて実は最も過ごしやすい天候。しかし雲が出ている以上そこから天気が崩れる可能性もあり、気象情報には注意しておきたい。



冬コミの【雨&雪】

当然降らないに越したことはなく、確率的には低い……ハズが、最近の冬コミは結構な頻度で降雨降雪に見舞われている。わずかでも濡れるとなかなか乾かず、体温を急激に奪われるため、降らないことを祈願するよりも適切な対策を講じておいた方が賢明だ。この時期の雪はほとんど積もらないが、都市の構造上とにかく足元が滑りやすくなるので危険度は高い。